

491. I think you would find it **worth your while** to take a holiday some time, and see the great city.

N. R. IV, N. S. R. IV.

492. His employees fall into his slovenly ways, and never think it **worth while** to do anything just right, because their employer does not do so himself. *Y.*

(191)

He did many things **worthy of remembrance.**

【譯】彼は種々記憶するに足る様な事業をなした。

【解】 **Worthy of**=価値ある、……するに足るに、……に相當する、を恥しめざる。

【類例】 He is **worthy of** the esteem of his fellowmen.

彼は仲間の尊敬を受けるに足る人物だ。

This is a noble deed **worthy of** a Japanese.

此れは日本人として恥しくない立派な行である。

493. They wasted their time in idle pleasures, and never did any thing **worthy of remembrance.** *P. H.*

494. In short, after having labored hard for two months to find the right kind of clay,—to dig it, to bring it home, and to shape it,—I had only two great ugly earthen things, not **worthy to be called jars.** *S. R. IV.*

495. When this action, **worthy of** the courage of Morgiana, was executed without any noise, she returned to the kitchen with the empty kettle. *A. N.*

496. You must not say that; such language is **unworthy of** a man. *Star R. III.*

497. *To cut short the discussion*, you think that the enterprise which the Genoese proposes, is one **unworthy of** our serious consideration. *U. R. IV, G. R. V.*

498. If I wore such clothes, I should be able to see what men in my empire are unfit for their posts and **unworthy of** my confidence. *N. R. V.*

(192)

I **would rather die than** be a thief.

【譯】泥棒するより死ぬ方がましだ。

【解】 **Would rather……than**=would sooner……**than**=would as soon……**as**=……するよりは……する方がましだ。

【類例】 I **would rather** lose all my fine trees **than** have you tell one lie.

お前に虚言をつかれるよりは私の大切な木を皆なくす方がい

499. I wouldn't be a mineral *for the world!* I would not lie still and do nothing, year after year. I would rather spread my branches in the sunshine, and drink in the sweet spring air through my leaves. N. R. IV.

500. He had his right leg pierced by a shot, but he said that he would rather have lost both his legs than have seen dishonour brought upon the English nation.

海機. 四一.



1917
1918

受 驗 準 備

大正三年一月十日印刷 © 大正三年一月十日發行

不許複製 不許漢譯



著 者	篠 原 新 次 郎
發 行 者	東 京 市 神 田 區 錦 町 三 丁 目 三 番 地 岸 野 英 一
印 刷 者	東 京 市 牛 込 區 山 下 注 連 雄
印 刷 所	東 京 市 牛 込 區 秀 英 舍 第 一 工 場

發賣所 東 京 市 神 田 區 錦 町 三 丁 目 角 勉 强 堂 書 店
振替東京二六〇番 ● 電話本局一二四番

正價金五拾錢 ● 郵税金六錢

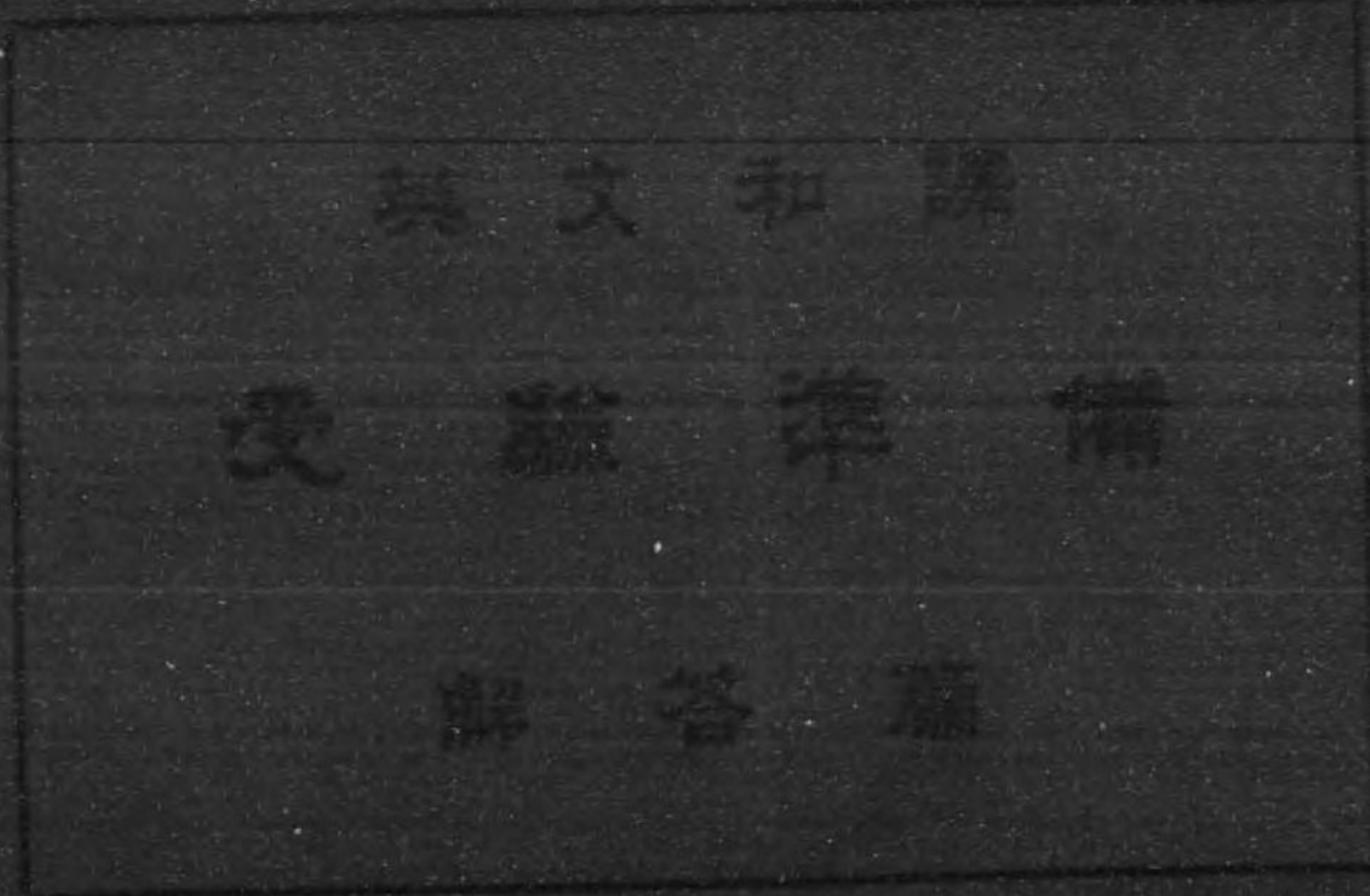
受 験 者 及 中 學 上 級 生 絶 好 の 参 考 書

篠原増之助先生著 (新刊)

和文
英譯
受 験 準 備

解答篇共全一册
四六判美装
正價金五拾錢
郵送料金六錢

本書は受験者並びに中學上級生の和文英譯自習用として著されたるものにして全部を分ちて十編四十三章となし各題毎に用語を加へ文法上困難なる所は之を詳述し語句の至難なるものには一々参考例を設け別冊として之が解答篇を附せり。蓋し本書は和文英譯練習絶好の参考書にして受験者の缺くべからざる良書なり。



受驗者及中級上級生絶好の参考書

篠原増之助先生著 (新刊)

和文
英譯
受驗準備

解答篇共全一冊
四六判美裝
正價金五拾錢
郵送料金六錢

本書は受驗者並びに中學上級生の和文英譯自習用として著されたるものにして全部を分ちて十編四十三章となし各題毎に用語を加へ文法上困難なる所は之を詳述し語句の至難なるものには一々参考例を設け別冊として之が解答篇を附せり。蓋し本書は和文英譯練習絶好の参考書にして受驗者の缺くべからざる良書なり。

英文和譯
受驗準備
解答篇

英文和譯受験準備

解答篇

(1)

1. 暫らく見て居て彼が何をして居るのかを見ませう。
2. 程なく彼の祖母や近所の人々はアイザックが何をして居たのかを知つた。

【註】 It was not long before.....「間もなく.....した」。

【例】 It was not long before he came.

間もなく彼が来た。

3. そこでマイダスはポケットから眼鏡を出して自分のやつて居る事をもつとはつきり見ようと思つて其れをかけた。

【註】 in order that.....might 「.....する爲」——(103)参照。

4. リード夫人には何處となく夫人を知つて居るものゝ氣に入る様なやさしい所が有つた。

5. あの人には何處とはなしに元榮えた事もある様な様子があつた。

【註】 better days = days of better fortune 「今より盛んな時代」「今より幸福な時代」。

6. 此の見慣れぬ男の様子にはどうも變な不思議な所があつたので打ち解けて話も出来なかつた。

(3)

7. 彼等は貧乏ではあつたが金の爲めに國を賣る様な卑劣な人間ではなかつた。

【註】 Though poor = though they were poor.
at any price 「どんな大金を貰つても」。

8. 彼はまゝ食ふに困らないと云ふ位な所であつたが自分では有福な身になりたがつて居た。

【註】 to be possessed of = to have, or to own 「持つ」「所有す」。

9. 健康は有ゆる金銀財寶にも優るもので健康な人は殆んど他に望むべき物がない。然るに不幸にして身體の弱い人は世の如何なる福祉を以てしても償ふことの出来ないものを欠いて居るのである。

【註】 above = superior to 「……より優る」。
to make up for 「償ふ」——(97) 参照。
little more 「其れ以上殆んど……ない」——(88) 参照。

(4)

10. 他人に対しては禮儀を守り且氣を付けてやり友達には親切にし又特に父母や兄弟姉妹に対しては丁寧にしなさい。

11. ダニエル、ウェブスタは博學な男子婦人に會つて話をするのが好きであつた。彼は嘗て此學者仲間の事を指して言つた『私が取りわけ話をして見たいと思ふ人は何事か私に教へ得る人である』と。

(5)

12. 恐れが去れば兒鹿は獨手に歸つて來るだらうと思つた者もあつた。

(6)

13. 此れは昔手でやる時代もあつたが種を出すのに非常に手間が取れ従つて費用も大いに嵩んだ。

【註】 such は後の that に續く。

14. 日は段々暮れるし唯さへ困つて居るのに又ひどい吹雪になりだした。

【註】 near at hand 「迫りて」「すぐ近くに」。
to set in 「始まる」「來る」。

(7)

15. 店から何でも好きな本を十冊御探んなさい、それと此の間の二冊とはお前に上げるから。

【註】 which shall be 「其れを……にしやう」——(143) 参照。

16. 麒麟は驚くべき視力を有する上に又遠くから危險を嗅ぎつける事が出来るので此れ位近寄り難いものはない。

【註】 difficult of approach 「近寄り難い」——(119) 参照。

(8)

17. 己れの力のあるに任せて弱い者いじめをする様では其の子は確かに思ひやりとか尊敬とか云ふ事を未だ知らないのである。

【註】 you are sure 「……は確かである」「確かに……」。

18. 人は誰か他の者を雇つて働かせる場合には其の者の無智或は貧困なのに乘じて仕事相應の賃金を拂はないでそれより少額を支給する様な事があつてはならぬ。

【註】 ought not to 「……してはならぬ」——(127) 参照。

19. 如何なる取引を如何なる人となすにも人の弱點に乗ずる様な卑劣な事をしてはならぬ、又自分の自由になる人に辛く當る様な事があつてはならぬ。

【註】 to be hard upon one = 人に辛く當る、冷遇する、いぢめる。

(9)

20. だが一つお前に云つて置くが學校へ行かなきや働くのだぞ、いか、わしはお前を遊ばせて置くだけの餘裕はない。

【註】 to have you idle 「お前を怠けさせて置く」。

21. 彼は僕よりか餘程金持なので海外漫遊の費用は出せる。

【註】 fortune「財産」。

22. 『避暑に行くだけの餘裕のある者で夏紐育にとどまる者はない』と彼が云つた。

【註】 to leave は紐育を去る(即ち此の場合は避暑に行く意)。

23. 上等の果物が見つかったので吾々は眞とうに助かつた、で力も回復した。

24. 其の頃大草原には野牛が無數に居て土人に衣食を供給した。

【註】 both.....and「且」「.....で又.....」——(33) 参照。

(10)

25. 時々彼はハートリに向つて『牝牛は達者かね』など、尋ねた、それも態と或人々の眞似をして『キヤアウ』なんて變挺な言ひ方で。

【註】 to inquire after = to ask after 共に人の健康を尋ねる時に用ふ。

to inquire of Hartly「ハートリに尋ねる」。

inquire を用ひる時は「誰々に」と云ふ所へ of を用ふ。

26. 彼の女は左手でアブダラから太鼓を奪ひ右手に短劍を持つて商賈人(踊りを業とする者)がやる様に太鼓の裏を差出した。

(11)

27. フリッツが父の手を執り己が經驗談をなした時士官等は熱心に聴いて居た。

28. 私が彼に親切に話しかけてやつたら彼は直ちに嬉しそうな顔をして居た。

(12)

29. 彼は零落したと云つてもいゝ位だ。

(13)

30. お前の交つて居る友達を云つて御覽、すればお前はどうか云ふ人物だか云つて見せる。(その交はる友を見れば其の人の人物がわかるの意)。

【註】 Tell me the company you keep, and.....

= If you tell the company you keep,.....

31. 他人(ひと)が話をして居る時には遮ぎらないでよく終り迄御聞きなさい、すればそれだけその人の言ふ趣意がわかります。

【註】 hear him out, and.....

= if you hear him out,..... ——(125) 参照。

32. 正直な人間になれ、そうすれば此世に悪者が一人減つたと見て差支ない。

【註】 Make yourself an honest man, and.....

= If you make yourself an honest man,.....

33. 御母様の教へを守るがいゝ、そうすればお前は御母様の老後の杖となるだらう。

【註】 of her declining years = in her old age「年老いてからの」。

Be faithful to her teachings, and.....

= If you are faithful to her teachings,.....

(14)

34. もう一度此んな損をしようもんなら吾々は零落してしまふ。

One more such loss, and.....

= If we suffer one more such loss,.....

35. 眠つて居る際に少しでも動いたら彼は轉げ落ちて下なる岩に當つて粉微塵になつてしまつたに相違ない。

【註】 The least movement in his sleep, and.....

If he had made the least movement in his sleep,.....

(15)

36. 彼は利口所か大馬鹿だ。

(16)

37. 草の話をする人は兎角馬や牛の食べる牧場の草の事計り考へるのが癖だ。

38. 吾々は輒もすると東洋諸國よりも優れて居ると思ふのが癖だが吾々が日本人から學び得るものも少なくない。

【註】 superior to = より優る — (92) 参照。

39. 人は兎角空気がありさへすればどんな空気でもいゝと思ふものである。

【註】 to take it for granted 「勿論の事と思ふ」「憶斷す」。

40. 人は平気で交際する者に兎角似易いもので何も彼等の欠點を眞似る氣でなくても又そんな氣づかひないと思つて居てもやつぱり同様な悪い癖に陥るものである。

(17)

41. 彼は賢い人だつたが變な癖があつた。

【註】 Wise as he was = Though he was wise.

42. みつともない靴ではあつたが其子は其れを買つて今だに履いて居る。

【註】 clumsy as they were = though they were clumsy.
up to this time 「今日に至る迄」「今だに」。

43. 羊はどれを見ても同じ様だがあれでもそれぞれ違ふ所があるのでジョンにはちゃんと其の見別がつく。

【註】 Much as sheep look alike
= Though sheep look much alike.
To know one from another 「...の區別を知つて居る」。

(18)

44. 併し家こそ貧しくはあつたがサム、ジョンソンは英國のどの貴族の子にも劣らず高慢な子であつた。

【註】 poor as the family were = though the family were poor.

45. 此のハイラム、ストロツサの手形が何人の手形にも劣らず喜んで受取られる様な時もいつかは来る事であらう。

【註】 that は the note を繰り返す代りに用ひたるもの。

46. 此の犬は此迄森を探し廻つた中で最も勇ましい犬であつた。

(19)

47. ベンはどうかと云へば鞭で打たれるより父に叱られる方が恐かつた。

48. 名聲なんて物は得ようと得まいと一向構はない。

49. 舌はどうかと云へば手が食物を口に入れてくれなければ味覺の王だなんて威張つても居られまい。

【註】 to abdicate its throne as the lord of taste 「味覺の王としての位を辭する」。

50. 私はどうかと云ふとたつた一弗の金も借りる事は出来ず銀行では私の手形を拒絶するし頼みとする友人すら私を見捨てゝしまつててんで構つて呉れない。

【註】 to desert 「見捨てる」。

(20)

51. 獵師が熊に襲はれた時によく死んだふりをして地面に伏して危難を免れたと云ふ事を聞いて居たので彼は狼にも此方法をやつて見やうと思つた。

【註】 had heard = 是れよりも先聞いた事があつた。

52. “ミークアイ”にもそれが見えたと見えて彼は頭を擧げて足を早めた。

53. 二人の悪者は何か持つてゐる様に片手持ちあげて『御覽なさい、此れがチョッキで御座います、此れが上衣で、此れが外套で』などとうまい事を云つた。

54. 彼は赤兒の顔を内しよで紙に畫くのは何か悪い事でもある様に思つた。

55. 彼は算術でも圖畫でも作文でも一番だ。彼は何でも直ぐに了解する。彼は驚くべき記憶力を有つて居て何でも骨を折らないで成功する。彼には勉強はまるで遊びの様だ。

【註】 on the spot 「其場で」「立所に」。

(21)

56. 一方は岩だらけの海岸、一方は鋭き鋸の齒の様な島だつたので彼等は云はゞ死神の而も顎の間を通つて行く様なものであつた。

【註】 the very jaws の very は意味を強めたるもの——(178) 参照。

57. 言はゞ往來から拾ひ上げた様なものでそれを我が子として(可愛がつて)育て、やつた其子によくもま—此んな恩知らずの事が出来たものだ、實にあきれてしまふ。

【註】 Who would have thought は強き驚きを表はす「實に意外だ」の意。

to bring up = to train or to nurse 「育てる」。

(22)

58. あの葡萄は酸つばくてとても私なんかの口にはあふまい。

59. それから皆して行つて見ると子供はどうもなく又少しも驚きもしないでニコ々として居た。

【註】 as if 「まるで……の様に」——(20) 参照。

(23)

60. 己れの欲する所を人に施せと云ふ簡単な規則は是非記憶すべき規則である。

(24)

61. それを綺麗に爲てくれと云はなかつたからと云つてなにも此んなにぞんざいにやらなくてもいゝぢやないか。

【註】 business 「必要」。

62. 自分が嫌ひだからと云つて其事が出来ないと云ふ譯のものぢやない。唯自分の嫌ひな事をやる方が餘計に骨が折れると云ふ丈の話だ。

63. 子供が偶々丈夫でないからと云つて何も海上生活は不適當だとは限らない、海上生活が却つて其の子を強壯にするのに必要であるかも知れない。

【註】 to happen 「偶々……」——(41) 参照。

the very thing の very は「却つて」の意——(178) 参照。

to make a strong man of him

「彼を丈夫な人にする」——(122) 参照。

(25)

64. 私は質素ではあるが小ざつぱりした軽い夏衣を取つて着た、所が此れ位能く似合つた着物は無かつた様に思はれた。

【註】 plain = 「飾らない」。

clean 「汚れなき」「さつぱりした」。

to put on 「着る」。

(26)

65. 彼は夢中になつて怒つて居た。

66. 彼の妻も亦驚きと喜びの爲めまるで氣狂の様だつた。

(27)

67. ピストルや劔の外に二人とも鐵砲を二挺宛持つて大膽に進んで行った。

【註】 *apiece* = *each* 「各自」。

68. 軍隊以外に彼の方には象が澤山居た。此等の巨大なる動物は一頭でも優に一聯隊位の兵に相當した。

(28)

69. それ(牝牛)はもう婆様だから車を挽くか、つぶしにする位が積の山だ。

(29)

70. それを考へる爲めに二週間御猶豫下されば出来る丈の智慧をしぼつて御答へ致します。

71. 全力を盡して漕いだが船は潮流以上には殆んど進まなかつた。

【註】 *made little more way than the tide* 「潮流よりもつと進む事は殆んど出来なかつた」。 *little* —— (ss) 参照。

(30)

72. 彼は自分から友達に喧嘩を仕掛けておいて負けてしまつた。

【註】 *to provoke* 「挑む」。

73. 本で讀んでる時には何時も狼に勝つのは雜作なかつたが此度許りは僕の方がやられた様に思はれた。

【註】 *as if* 「恰も……の様に」 —— (20) 参照。

(31)

74. お前は家へ歸つて其事は黙つて居る方がいゝ、金を取り返さうなんてすると却つてお前の馬鹿を曝すだけだから。

75. 死なれちや困る、生きて居るに限る、で都合さへよけりや月曜に馬車で出發と云ふ事にしよう。

【註】 *if all goes well* 「もし萬事都合よく行けば」。

【例】 *Everything went well.*

萬事好都合に參りました。

Everything went with me just as I wished.

萬事思ふ通りに旨く行つた。

(32)

76. だん々々掘り下げて行くと遂に幅の廣い平たい石が出て來た、ところが其れは馬鹿に大きな石で彼の方ちやとてもどけられなかつた。

77. もう此時分には燃えてる森の光は見えなかつた。

78. やる度毎に力がつく、で最初出来なかつた難問も骨折つて居る間に得る其智慧と力とで終には出来る様になる。

【註】 *by dint of* 「……により」 —— (51) 参照。

the very —— (178) 参照。

even though 「たとへ……にしても」 —— (58) 参照。

(33)

79. 亞米利加虎は形と云ひならばしと云ひ虎に大變能く似て居るが皮膚の斑(まだら)は虎とはまるで異ふ。

80. よく御覽になればおわかりになります。が偽油商も彼なら四十人の賊の頭も彼なのです。

Look well at him, and……

= *If you look well at him,……* —— (13) 参照。

(34)

81. 自分の事ばそつちのけにして他人の事なら誰の事でも喜んでする人がよく世間にはあるものだ。

【註】 ready to 「何時でも喜んで……する」。
to attend to 「従事する」「注意する」。

82. 彼はある寡婦の七人の子の中の一人であつたが家が貧しかつた爲
學校と云へば田舎の小學校に通つて読み書き算盤を教はつただけである。

【註】 too poor to send…… 「餘り貧乏なので……出来ない」
——(171) 参照。

the “three R's” = Reading, writing, and arithmetic.

83. 多分^{やう}云はないでもわかつて居る事だが室中の一番よい席につ
いたり又食事の際に先づ人に勧めようともせずいきなり好きなものを
取つたりして自分さへよければ人はどうでもよいと云ふ様な振舞をする
のは極めて無禮な事である。

【註】 I dare say = perhaps, probably 「多分」「おそらくは」。
need not 「……するに及ばぬ」。
as if 「恰も……の如く」——(20) 参照。

84. 年若い將軍の外皆口を噤んで語らなかつた。

(35)

85. 此事に自分が關係があると思つて居ない者は一人もない。

【註】 but considers = who does not consider.

86. 世間からはどれ程卑しいと思はれて居る職業でも必ず此世で一番
偉い價值ある人物を出して爲めに其職を貴くして居る。

【註】 but has been honored = that has not been honored

(36)

87. 空中に酸素がなければ蠟燭もガスも燃えまい又火も消えてしまふ
だらう。

88. あなたが居なかつたら私は此事を知らなかつたでせう。

89. 彼等は寒さの爲め感覺を失つて居た。吾々が折よく助けてやつた
からいゝ様なものゝもう少しで凍え死してしまふ所だつた。

【註】 to freeze to death 「凍死す」——(169) 参照。

90. あなたの助力がなかつたら私は零落してしまつたにちがひない。

91. 岸は高く又險しかつた。それ故手の届く所に木の根がなかつたら
恐らく上れなかつたらう。

【註】 scarcely——(72) 参照。

within reach 「手の届く所に」。

(37)

92. 私は彼女よりずつと力もあるし丈も頭だけ位高い。

93. どの兵士よりも頭だけ位大きいツール王ですら此大男と雌雄を決
するだけの勇氣はなかつた。

【註】 to be afraid to 「恐つて……しない」。

(38)

94. 彼は疲れては居たが元氣よく飛込んで行つてそつとローラの頭を
つかんで無事に陸にあげた。

【註】 tired as he was = though he was tired.

95. 私は彼に自分の冒険談を聞かせた、すると彼は私の手を取り或洞
穴の方へ連れて行つた、其處にはまた人が何人か居たが此方でも驚いた
が向ふでも私を見て驚いた。

96. 其石は美事に大男の額に中り脳髓深く入つたので大男ゴライアス
は地面にぶつ倒れた。

97. 程なくウルフ將軍は身體に傷を負ふたが未だ務を果さないの苦
しみを顔に表はさなかつた、すると又一發の彈丸が彼の胸に命中した。

98. スクラツピは後ろから小供に石を投(ほ-)つたらうまく其子の足に中つた。

(39)

99. 彼は小道具も一通り揃へて居た又鋸も大小色々持つて居たが何れも自分で拵らへたものであつた。

100. その邊に住むもので風も吹き込めば雨も洩る狭くろしい部屋に唯一人住んで居る獨身の婦人が居た。

【註】 both.....and「.....も.....も」——(33) 参照。

101. 二三年経つて父が死んだので後に残つたサム、獨力奮闘して行かなければならなかつた。

【註】 to fight one's way「奮闘する」。

(40)

102. 一體ま—彼等はどうしたのでせう。

103. 一體此れは何の爲めの印だらう、内の主人に何かよくない事をたくらんで居るものがあるに相違ないと彼女は獨言を云ふた。

104. 夫は確かに少しは金を持つて居たのだが一體ま—其お金をどうしてしまつたのかしら。

【註】 What could he have done with it! は What can he have done with it! よりも更に疑ひ強し。

(41)

105. 其日の旅を終へてから何氣なく財布を探つて見たらなかつた。

106. 所が或る冬の晴れた日に蟻が穀物を日なたにひろげて乾して居たら餓死しかゝつて居る蟋蟀が偶ま其間を通つた。

【註】 in the sun「日なたで」。

107. 此人は曾て自分等を瞞した悪い奴の仲間だと云ふ事が偶然にも彼等にわかつた。

(42)

108. どうしてま—彼はそんなに澤山馬肉を得たのか。

109. ま—どうしてお前はそんな大膽なまねをするに至つたのか。

(43)

110. 食料品屋はもう少しして腰掛から落ちる處だつた。

111. 彼等は寒さ、病氣及空腹の爲め將に死なんとした。

(44)

112. 怪我をした子供と云ふのは其の家に居る僅か一頭の良い牝牛の乳を賣つて生計(くらし)を立て、居る或る貧乏な寡婦の孫だと云ふ事が間もなく彼にわかつた。

(45)

113. 成功すると云ふ事は富や権力を得る事だと思つてはならぬ、若し富や権力を得んが爲めに良心に恥づる様な事をすれば其れは成功どころか寧ろ大失敗なのであるから。

114. 金持になつても身體をこはせば其人は此世で成功したとは云へない。

【註】 scarcely——(72) 参照。

115. 彼はどんな辛い目に逢つても必ず出世し成功せんとの大望をいだいて居た。

116. 彼は勇しい人だつたが又苛酷な人でそれが爲めに彼は命を失ふに至つた。

117. 僅か一度の過ちで多年かゝつて折角築き上げた名譽を失ふ様な事がないとも限らない。

【註】 years = many years 「何年も何年も」。

(46)

118. 今の其口のきゝ様は何だ、早速今日暇をやるからそう思つて居る。

【註】 this very day 「早速今日」——(178) 参照。

(47)

119. けれども彼の眼はだん々々薄暗いのに慣れて来た。

120. 段々と南北亞米利加の全海岸至る所發見された。

121. リップの恐怖の念も次第に薄らいで来た、で彼は誰も自分の方を見て居ない時に大膽にも其飲物を一杯やつつけた。

【註】 when no eye was upon him 「誰も見て居ない時に」。

(48)

122. 家庭に在りて吾々が義務を盡すと否とは兩親の躰け様一つだ。

123. 必要な抵當を入れなけりや君の約束をあてにするわけに行かない。

(49)

124. 彼はまた東洋に於ける葡萄牙の領土を奪つた。

125. 昔は吾々の祖先はいろいろ々と自由を束縛されて居たものだ。

126. 戸が開くのを見るや否や彼は飛び出して首領を投げたが何にしる大勢の賊が居た事故彼等の手にかゝり倅月刀を以て殺された。

【註】 no sooner.....than 「.....するや否や」——(73) 参照。

127. 此ふ云ふわけで嘘をつく子供は其の悪い癖を治して貰ひに屢々彼の所に連れられた。

128. 此れ迄随分困苦災難にも出遭つたのだがやつぱり性も懲りもなく新たに航海をやつて見たくてならなかつた。

129. コロンバスの留守に西班牙人は彼等を打つたり無理に仕事をさせたり又金を巻き上げたりした。

130. けれども此等の船の船長はよく良民の子女をさらつて行つた。

【註】 would 「常とした」——(176) 参照。

131. 或人がヂエルサレムからヂェリコに行つた所がふと盜賊に出遇つた。賊は彼の衣類を剥ぎ取り傷を負はせ彼を殆んど半殺したて行つてしまつた。

(50)

132. 『まあ、此れを私にですつて、いえいえ、私はこんな物をいたゞく道理はありません』とアリスは叫んだ。

133. 病める戦友の荷物を持つて遣つて其れが爲に死んでも何一つ不平を云はない兵士はたしかに國家より報酬を受ける丈の價値がある。

(51)

134. 骨折つて絶えず働いた爲め貯蓄銀行の預金額は僅か宛ながらもだん々々にふえて行つた。

【註】 as time went on 「時經るに従つて」。

135. けれども三人の旅人がしつこく聞いたので終に彼をして口を開かしむるに至つた。

【註】 to persist in 「固執す」「言ひ張る」。

to succeed in + Gerund 「うまく.....する」。

136. 手早くやれば今では困りきつて此不便を或は避けられやうかとも思つてマイダス王は今度は熱い馬鈴薯を手早く取つて口へ押し込んで大急ぎで呑み込もうとした。

【註】 in a hurry 「急いで」。

(52)

137. さー、どうぞ彼處へいらした時の事を御話し下さい。

138. 後生だから此難局から私を救ひ出して呉れ。

(53)

139. 併しチエームス王はローズ、アルデア號は定めし金を満載して歸つて來る事だらうと思つて居たので大いに當てがはずれてもう其事に關係する事を拒んだ。

140. 君が若しあの男は實に卑しい奴だと云ふ事を御存じなら彼んな男と關係しないだらう。

(54)

141. 靴の代にと云つて母が送つて呉れた金があるが今の所靴はなくてもすむ。

【註】 for the present 「差當り」「今の處」。

142. 次に吾々は無くても濟む物には譬へ一文でもつかわぬ様になければならぬ。

143. 世界には偉人は居なくてはならないが時としては其偉人が却つて世界に煩ひする事もある。

(55)

144. 此は二十五年の永い間に得た習慣によるものである。

145. ロング、アイランドの戦は千七百七十六年八月二十七日に起つた。米軍は敗れ退却するの止むなきに至つた。此敗北の主因はバット

ナム將軍の不注意にあるので彼はウオシントンの命令通り各通路に守備兵を置かなかつたのである。

【註】 to take place 「起る」——(158) 参照。

to be obliged to 「いやでも應でも……しなければならぬ」。

(56)

146. 一體ま—あなたは何處に行つて居たのです、私は此處でさつきから永い事待つて居たのです。

147. どうしてま—あなたは壁一面に此んな繪を懸ける氣になつたのです。一體何處から此んな繪を持つて來たのですか。

【註】 to possess 「(狐などが) 取つつく」。

【例】 He is possessed by a devil.

彼は悪魔に取つかれて居る。

What has possessed....「此んな繪を壁一面にかけるなんて一體どうしたのだ、狐にでもとりつかれて居るのではないか」

148. 山の様に積んである石なんぞ盗まうとする奴が一體何處にあるものか。

(57)

149. それから王様は爐邊に座つて新たに得た家來と話を始めた。一方母親は夕飯の仕度に忙しかつた。

150. 私は或商人と契約を結んで皆で出し合つて準備した船に商人等と共に乗つた。

【註】 to fit out 「仕度す」「艦装する」。

(58)

151. 彼は小さくはあつたが仲々しつかりして居た。

152. たとへ鐵砲を頭に向けられても起きて居られない位眠かつた。

【註】 本文の if = even if.

153. 勉強しないと罰せられるにきまりきつてののだが遊びたくなると彼は勉強なんかそつちのけにして遊ぶ。

154. 彼はよく韃靼人の槍位ある長い重い竿を持つて濡れた岩の上に腰を下して一日かゝつて唯の一度も引いて呉れないでも別にこぼしもしないで釣をして居た。

【註】 would 「よく……したものだ」——(176) 参照。

(59)

155. 吾々は巢を探す爲に實に澤山の木に登る。

156. 其處では前よりもずつと澤山の聲が聞え又一層喧しかった。

【註】 noisier than ever 「前よりも喧しい」。

157. 老衰して居てもやりつけて居る事ならいくら強い若者でもそれになれて居ない者よりも骨の折れる仕事をわけなく成し遂げる。

【註】 to be accustomed to 「なれて居る」——(175) 参照。
with greater ease = more easily 「……よりもつと容易く」
——(188) 参照。

to be unaccustomed to 「なれて居ない」——(175) 参照。

(60)

158. 彼は木の後に隠れてちつと見守つて居たら此人食が何人も々々々焚火を圍んで一人の捕虜を食べて居るのが見えた。其側にもう一人捕虜が横になつて居たが自分の番が今来るか今来るかと思つてビク々々して居た。

159. 鱗が見えなくなるのは今か今かとヒヤ々々して居た——そうすれば最早全く助かる望みのない事は明であつたから。

(61)

160. 吾々は或程度迄しか地球の引力に勝てやしない。

161. 彼は商賈に身を入れてやつたので其後非常に繁盛して今では金持になつて居る。

【註】 in time 「終には」——(166) 参照。

(62)

162. 手術して貰つてもどの道治らないに定まつて居る。

163. 豹がまだ洞穴の中に居るのは確であつた。生きて居るか死んで居るかは分らなかつたが兎に角傷を負ふた事は事實で吾々の狩獵用の小刀が柄の所まで血だらけになつて居た。

(63)

164. 母親の云ふ事をきかないで此の若い婦人は舞踏會へ出た。

(64)

165. 他人の事情を能く知りもしないでむやみに人を輕蔑したり非難したりするのは危険である。

166. いつも不平をならして許り居て働くよりか愚痴をこぼすのが好きな“レイズイ”は虐待すると云つてぶつ々々云つた。

【註】 had rather = would rather——(192) 参照。

(65)

167. すらりとした優美な麒麟の群位見て心地のよいものはたんとはない。

168. 誰でも自分でやつて見ない内は己れの力量を知る事は出来ない。又いやでも應でもしなければならなくなるまでは全力を盡してやる者は少ない。

【註】 to try their best 「全力を盡してやつて見る」——(29) 参照。

(66)

169. 大きい鳥にしちや其割に頭が小さい。
 170. 慥かに其れは米人としては愛國的な意見である。
 【註】 upon my word 「慥かに」「誓つて」。
 171. 子供に似ず勇しく彼はづん々々婦人の方へ進んで行つた。

(67)

172. 落ちやしないかと思つて恐がつて彼は溝を飛び越えなかつた。
 【註】 to be afraid to 「恐つて……しない」。
 173. 彼は手で戸をたたくわけにも行かずそうかと云つて倒れるといけないので足を持上ようとしなかつた。
 【註】 to dare——(46) 参照。
 174. 其必要なのは船が暗礁に乗り上げてめちや々々々に碎けたり淺瀬に乗り上げたりする様な事のない様に 船長にあまり近くを航海せぬ様に豫め注意するにあるのである。
 175. ぼろを出すといけないから成る丈言葉数を少なくしなさい、目上の人や知らない人の前では猶更そうである。
 【註】 few——(65) 参照。

(68)

176. 彼は仲々器用な兒だつたので自分で畫筆を作らうと決心した。
 177. 蛙殿は荷仕度をして眼鏡を拭きながら云ふた『ひとのよく云ふ大洋で云ふのは一體何んな物なのか一つ自分で見て來よう』。
 178. 人の助を藉りずに自分でやつた子供は一步だけ進んだのである。それのみならず彼は猶一層上へ進み得る力を得たのである。
 【註】 what is better still 「猶一層善い事には」。

(69)

179. 其れ故私は其詩を少し宛覺えて行つてやめてしまはなかつた。
 【註】 little by little 「少し宛」。
 180. 私は大阪の大海を見る積りで出掛けたのだがひどく草疲れたから大阪行はやめて此の山から眺めて置く丈でいゝにしておこう。
 181. 水夫等はがっかりしてスペイン難破船を見出して一儲けしようと云ふ事は斷念した。
 【註】 to make one's fortune 「金持になる」。

(70)

182. まはりにたかつて居た人々は彼の驚くべき手並みを見てあつ氣にとられていつもの様に騒げもしなかつた。
 【註】 they could not……clamor 「いつもは驚くと騒ぐのだ此の時はあんまり吃驚して聲も出なかつた」。

(71)

183. 其間に佛軍は敗れて四方に潰走した。
 184. 水は大變淺かつたので氷が破れても水の中につかる位な事で其れ以上に心配はなかつた。
 【註】 in the event of 「……の場合には」「若し……にしても」。

(72)

185. 彼女はひどく驚いたものだから仲々出て來ないでもう殆んど歩けない位腹が減つて弱つてしまつてから漸く出て來た。
 186. 彼は寢しなに枕元へ繪具箱を置き殆んど一睡もしなかつた。それは寢ながら想像で暗闇の中に畫を畫いて居たからである。

187. 女王に御目にかゝらない内はどうも生きて居られない様な気がします。

【註】 as if = 「恰も……の様に」——(20) 参照。

188. マイケルは有名なデーギイ氏からの招待状を讀んだ時はまるで夢の様であつた。

(73)

189. 所が船が出てから間もなくひどい暴風雨になつた。

190. ニコラスが眼をさますかさまさないに自分の家の方に馬車の近く音が聞えた。

191. 散會後間もなく彼は正氣に復へつた。

【註】 to break up 「散會する」。

192. 彼が其處に入るや否やハムの香がしたので一寸法師は彼の周りに大勢たかつて來た。

193. 此ふ云ふ風に決するや否や彼等は直ちに其を實行した。でもう別に用もなかつたので寶藏をちゃんと閉めて出て行つた。

【註】 to put in execution 「實行する」。

(74)

194. 私は出来ればあなたに本も上げ學校へも行かせて上げたい、又どうにでもしてあなたを幸福にして上げたいのですが。

195. はゝあ、君は僕に其事をすつかり云はせ様と云ふのですれ、でももう其れ以上御話するわけには参りません。

【註】 to speak out 「すつかり云つてしまふ」——(125) 参照。

you shall know no more = 「もう知らせない」——(148) 参照。

196. 非常な大雪でもあり其れにだん々暗くもなつて來たのでマルカムは息子にそんな危険な旅をさせるのを好まなかつた。

197. 他人(ひと)にして貰ひたいと思ふ様に他人にもする様にしなさい。で他人が折々そうして呉れないでも落膽しなさんな。

【註】 if = even if 「……しても」——(58) 参照。

198. あなたが御出になるといつでも大喜びなのよ。

199. そう云ふ着物を一襲(かさね)早速作らせる事にしよう。

200. 其動物は一方の脚を折られたに違ひない。それは柔かな地面について居る足痕でわかつた。

201. 私は其の羽で枕をつめさせよう。

(75)

202. 彼は思ひ切つて戸口の所へ進み寄り愈々たくまでには何度も其前を通つた。

203. 翌朝私等は幸ひにも或鳥に打ち上げられた。

204. 日が出てから私は何か食べる野菜はないかと思つてのこ々々出かけた。すると幸ひ野菜も少しあつたしおまけに清水の湧いてる所が見付つた。

【註】 not only……but likewise 「……のみならず又」——(110) 参照。

(76)

205. 彼は何にでも我儘を通そうとするので遊びにかけては下手だつた。

【註】 good at = a good hand at 「……が上手」。

【例】 He is a good hand at tennis.

彼はテニスが上手だ。

He is clumsy at milking.

彼は乳を搾るのが下手だ。

He is a poor hand at rowing.

彼は漕ぐのは下手だ。

206. 彼は水夫になる希望を持つて居たが母が其れが爲めに心を痛めたのを知り其れをやめた、彼は固い意志を持つて居たが何時も意地を通すと許りも限らなかつた。

【註】 to go to sea 「水夫になる」。

to give up 「やめる」「思ひ止る」——(69) 参照。

not always 「いつも……とは限らぬ」——(109) 参照。

to insist upon 「主張する」。

207. 嗚呼可愛想に、若し彼が私の忠告を開ききへしたら今頃は無事で幸福で居られたのだが云ふことを聞かなかつたので(とうとうあの様な始末)私は友人を亡くした。

(77)

208. 若しお前がおそくて又其れも仕方がなければよく人の云ふ事だがおそくともしつかりやるがよい。

(78)

209. 其證據で見ればどうしてもあの人の人殺しをしたとしか思へぬ。

210. 實際知つて居る事を知らないつて云ふわけには行かない。

【註】 what I do know 「實際知つて居る事」——(52) 参照。

211. 主人の命令とあれば何でも背いた事のないモージアナも此妙な云ひ付けを聞いては驚かずには居られなかつた。

【註】 to be ready to = 「喜んで……する」。

(79)

212. どうぞおらくになさつて何でも御隨意に召し上つて下さい。

【註】 Make yourself at home 「どうぞ御らくに」。

213. 彼等は其事については黙つて居たが彼が品物を擡げてこれから商賣しようとする時彼等は構はず彼の持つて居る物をすつかり勝手に取つて行つてしまつた。

【註】 to be ready to 「將に……せんとする」。

214. 殆んど絶望の有様で彼はゆで玉子を取るとそれも忽ち鱒や菓子と同様に金に變つてしまつた。

(80)

215. 出来る事ならほんとにあなたを始終家におきたいのですが。

【註】 Were it in my power……

= If it were in my power……

216. 魚は若し水の中で能く目が見えないとすれば岩に頭を打ちつけるだらう。

【註】 could it not see……

= If it could not see……

217. 立派な望を抱いて世に打つて出た人々の内に斯の様に失敗する者の多いわけを一言で述べると云はれたら余は『彼等は意志の力を缺いて居た』と斷言する。

【註】 Were I called upon……

= If I were called upon……

to call upon 「乞ふ」「要求す」。

218. 全歐羅巴の心膽を寒からしめたあの勇しい決心さへ失くさなかつたら彼ナポレオンは空しくセントヘレナに捕虜となり終らんよりは彼の地の巖をも熔かしたであらう。

【註】 before he would have…… の before = rather than 「……

せんよりは寧ろ……。」

had he not lost……

= if he had not lost……

219. 若し狭い道を行きさへしたらおそくとも確かな進歩をしたのに大抵の人は時間を省こうとする此の企てに失敗して往々乞食ともなり又罪人ともなる。

【註】 to make poor business of these attempts 「此れ等の企てに失敗する」——(122) 参照。

(81)

220. 若し萬一逃してやると此捕虜は又もとの悪い習慣をやり出しはしまいかと彼は云つた。

【註】 to take to 「初める」「耽る」。

221. 野の近くへ來ると彼は又もや敵が居やしないかと思つて木の周りを一周りして敵の居ないと云ふ事を見届けて再び木へ歸つて行つた。

【註】 the coast is clear 「邪魔物が居ない」。

222. 盜賊の頭が戸の開閉に使つた詞を思ひ出して自分がやつても同様な結果を來すかどうかやつて見たくなつた。

【註】 cause を用ふる時は後に to を用ふ。

(82)

223. 彼こそ眞の愛國者だと云ふていゝ。何故なれば彼は不正不義と信じた事は賛成出來ぬと少しも憚る所なく天下に公言した。

(83)

224. 禮服を着て居た軍人は殆んど滑稽な位威張つて煙草をふかして居た。

【註】 in full dress 「正装して居る」「禮服を着て居る」。

(84)

225. 此小さな動物は生れつき獷猛であるにも拘らず其地の女子供の極く臆病な弱い者と遊び皆んなに可愛がられて居る。

226. 文體は所謂乾燥無味であつたにも拘らず私が非常に面白く讀んだ本は古代の世界歴史であつた。

【註】 what is called 「所謂」。

(85)

227. クルソーは彼の命を助けたのが丁度金曜だつたので彼にフライデイと云ふ名をつけた。

228. 吾々に不満の感の起るのは不足の爲めではなくて他人が持つて居るのを見るからである。

229. 時間がないとか機會がないとか云つて始終こぼして居るのは怠け者で勉強家ぢやない。

230. 人を貧困の社會に陥れるのは有する物の少い爲ではなく更に多くを得むとする慾望の爲めである。

(86)

231. 成程まわりには彼等の聲も足音も聞えもしよう、又母の抱いて呉れるのも皆んなの親切な握手もわからうがそれでも(何分眼が見えないので)其人達は千哩も離れて居る様に思はれるだらう。

【註】 as if——(20) 参照。

232. 吾々は誰でも交際する者に丁寧にするのは成程結構な事ではあるが併し彼等を眞友とするの可否は全く別問題である。

【註】 to be brought into contact 「接する様になる」。
another matter = different matter 「別物」「別問題」。

233. 成程仕事をし過ぎて死ぬ人も少なくないが衛生の法を破つて死ぬ者の數と比べたら僅かなものだ。

【註】 not a few = very many 「少からず」。

(87)

234. 君の彼に就いて云ふ所は當を得て居ない。

235. マイダスのよい所も云ふてやれば彼は實際娘を可愛がつて居た。殊に其朝は特別な幸運が降りかゝつて來たので一層可愛がつて居た。

【註】 on account of「……の爲めに」。

236. ラムズダムの爲に辯ずれば彼は其晩食事が済んでからなぐつたのは悪かつたと云つて勇らしくあやまつた、で其後は吾々は元より却つて仲がよくなつた。

【註】 on better terms than ever before「前よりも親密」——(159) 参照。

(88)

237. ハートリは新入生なので生徒間にあまり知れて居なかつた。

238. 私はどうかと云へば私は戸外の仕事が大好きで氣候の温かな時分には食事の時と寝る時の外は殆んど家に居ない。

【註】 For my part=as for me——(19) 参照。
every bit of it「全然」「全く」。

339. 青年は眞の自重心がありさへすれば不徳と雖も殆んど彼の心を動かす事は出来ぬ。

【註】 so long as「限りは」「以上は」——(90) 参照。

(89)

240. 彼等は何れも猛鳥で大抵は他の鳥を食べて生きて居る。

241. 暫らくは持つて居たパンと水とでどうやら命をつないで居たが或日それもかれこれなくなつた時分に何か足音がきこえ又其れが動く時にいきをして喘ぐのが聞えた。

【註】 to be on the point of……「せんとする」。

242. 丁度虫が自分の食べて居る葉の色に似る様に子供はいつの間にか其周囲の人々に似るものである。

【註】 to come「……する様になる」——(42) 参照。

(90)

243. 父は進級して軍曹になつたが好きな馬鈴薯が食べられないぢや進級も何とも思ふまい。

【註】 to care for「構ふ」「氣にかける」「欲しがる」。

244. 彼(アルルド)は口を開いて夢で見た事や聞いた事を彼等に物語つた。其れが終ると彼等は一同歡呼して王に従ひ力のあらん限り王の爲に奮闘しよう云つた。

245. 世間には色々爲すべき仕事はあるが體面にかゝはる様な事でなく又必要な仕事でさへあれば其仕事をよくやる人は他人の尊敬を受ける丈の値打がある。

(91)

246. 樂觀する習慣は健康に大いに益がある。

247. 不景氣でも悲觀しなさんな。

【註】 even if「……にしも」——(58) 参照。

(92)

248. ハサンは他の駱駝逐ひから非常な大金持だと思はれて居た。

249. 彼等は知識が進んで居た爲めに他國人から魔術師の様に思はれて居た。

(93)

250. 實際余が死んでから三人の中どの者に王位を繼がせてよいか迷つて居るのである。

【註】 ought to to「……すべき」——(127) 参照。

251. 此間あなたがお前は何になりたいかとお尋ねになつた時私は答辯に窮してまだ分らないと御答しました。

(94)

252. 其の人は往來を歩いて居ると折悪しく人道に出て居る石に躓いて轉んだ。

(95)

253. 彼も矢張アリの肩を持つて彼の訴を輕んじた。

254. 彼は咳が出たが大した事はないと思つて油断して居たら手遅れになつて治らなかつた。

【註】 too late.....to be cured—(171) 参照。

(96)

255. 世間には時間は有り餘る程あると思つて其れが爲めに名を成し損ねる人が澤山ある。

【註】 time enough ^{to} and to spare = 「有り餘る時間」—(150) 参照。

256. こふ云ふ人は社會に出て決して名を揚げない。で實際貧乏はしない迄も一向人に知られもせず一生を終るのが常だ。

【註】 if not 「.....でないにしても」。

(97)

257. 私は損した時間のうめあはせをしなければならぬ。

258. 若し何かよい地位を得ようと申込んだ時に正直でなく勤勉でもなくしつかりして居ないと云はれて斷はられたらお前はどんな感じがするか、他にどんなものを持つて居ても此等の性質のうめ合せは出来ない。

259. 成功は來るのは遅くても愈々來るとなればそれ迄の色々の失敗を補ふものである。

【註】 when it does come 「愈々來ると」「實際來る日になると」。

(98)

260. 世間には財産を作つてもさて其れをどう使用してよいかを知らない者が澤山ある。

【註】 to make a fortune 「金持になる」。

what to do with it 「其れをどうしていいか」。

261. 私はお前を仕事もせずに遊ばせておく程金持でもなし又今後ともそうだ。世間には子供を遊ばせて置いて懲りた親がいくらもある。

【註】 has learned to his sorrow 「.....を知つて悲しんだ」

此の to は結果を表はす—(170) 参照。

(99)

262. 漕ぐ度毎にボートは矢の如くに進んで行つた。斯の様に吾々は十五分間權を漕いだが私にはまるで十五時間位に思はれた。

263. そこで彼等はまるで蜘蛛みたいに彼の周りに糸をかけ始めた。

【註】 like so many 「同数の.....の如くに」「まるで.....の如く」

「さながら.....の如く」。

(100)

264. 丈夫な人は食ひ過ぎない限り何を食べてもそう障らないものである。

【註】 so long as 「限り」—(90) 参照。

(101)

265. いくら高く垣根を造つても鳥は飛び越えると云ふ事が御前には解らないのか。

266. 他人はどうでも自分は何事をするにも決していゝ加減にやらぬ様に決心しなさい。

【註】 to make up one's mind 「決心する」。
by halves 「いゝ加減に」「不十分に」。

267. 彼は怒つてしまふと友達がいくら何と云つてもどうしても遊ばなかつた。

【註】 to get him to play 「彼を遊ばせる」——(74) 参照。

268. 望遠鏡の力がいくら強くても星は矢張り點の様にしか見えない、尤もこうして見れば肉眼で見るよりは光つて見えるのは事實だが。

(102)

269. 又其れも無理はないのだ、何しろ此んな珍しい鴛鳥は居た例がないのだから。

270. 氣候の點では日本は英國と大差ない。此點に於ても種々他の點に於けると同様日本は太平洋の英國と云つて差支ない。

【註】 As regards 「關しては」。
materially 「大して」。
to differ from 「違ふ」「異なる」。
as well as ——(182) 参照。

(103)

271. 勿論そんなに澤山(猿が)居る處では彼等が走り廻るのに狭くない様に儘も餘程大きくなくてはならぬ。

【註】 room 「餘地」。

272. 誰か乃公の相手になるものを一人出せ。若し其奴が乃公と戦つて乃公を殺せたら吾々は貴様の方の家來になつてやらう。而し乃公の方が勝つて其奴を殺せば其の時は貴様等イブラエル人は家來になるのだぞ。

【註】 that we may fight together 「二人で戦へる様に」。
You Israelites shall be.....
「貴様等イブラエル人を.....にしてしまふ」——(143) 参照。

(104)

273. 他人(ひと)に算術の問題をやつて貰ふのは丁度他人に自分の御飯を食べて貰ふ様なものだ。

【註】 to do one's sums 「算術の計算をする」。

(105)

274. 確かに彼女の居ないのがまだ誰にも気が付かなかつたのである。

275. 数多い中の一つや二つ取つたつてわかりつこなかつたのです。で(若しそう云ふ氣さえあれば)後で見付かる心配もなく容易く金持になれたのです。

276. 何れも助かつたのは自分丈だと思つて居るが乗組員中一人も行衛不明の者は居ない。

277. 油を載せた帆船八幡丸は五月五日長崎の近くで難破した。船長は行衛不明であるが他の乗組員は皆無事である。

(106)

278. 私は綺麗な石を探してよくれらひをつけて力一杯に投げた。するとうまく燕に中つて可哀相に燕は死んで落ちて來た。其れを見て急に悪い事をしたと思つたがもうしてしまつた事なので何とも仕方がなかつた。

279. 彼は男の兒が生れたら直ちにナイル河に捨て、しまへと命令した。

【註】 He commanded that.....should.....
「.....すべしと命令した」。

280. 此んなことを考へながらコーヒーを一匙口の所迄持つて來て吸ると唇が其液體に觸れるが早いか忽ちそれが溶けた金となり又直ぐ固まつて金塊となつてしまつた。

(107)

281. 平生安全に保管して貰ひ萬一の場合には何時でも使へる様に貯蓄銀行なり何なりに金を貯けて置くのは吾々の義務である。

282. 此れは非常に困つた場合には沙漠でよくやる事である。駱駝の胃は澤山水がはいる様に出来て居るので。

(108)

283. よその庭や果樹園から林檎だの西瓜だのを盗み取るのは他人の机から金銭を盗み取るのと同様によくない事である。

284. 人の智識はどうかと云へば骨を折らないでは之を人の心に植ゑる事の出来ないのは豫め鋤鉞で耕さなければ畑に小麦が出来ないのと同様である。

【註】 As for 「……はどうかと云へば」——(19) 参照。

285. 彼はいつも時間の約束を守り人の金を盗まないと同様にぐず々として他人の時間を取る様な事をしなかつた。

(109)

286. 床屋が云ふには『此れでは未だ木をすつかりくれたとは云へない、お前さんの木の荷鞍も序でに貰はなけりやね、其が御前さんの初めの約束なんだから』。

【註】 into the bargain 「おまけに」。

287. 機會は誰にでも來るのだが其來た時に之を利用し得るのは誰でもとは云へない。

288. 吾人の日常の生活に於て彼の兎と龜との競走は兎角吾人の思ふよりも遙に多くやつて居るのである。競走は必ずしも速い者が勝ち又戰爭は必ずしも強い者が勝つときまつて居ない事が解れば吾々はそうむやみに失望もしないだらう。

【註】 to be apt to 「……しやすい」「兎角……する」——(10) 参照。

289. リード夫人は昔から貧乏だつたと云ふ譯ではなかつた。夫人の夫は未だ此の世に在る頃は大金がある様に思はれて居たものだが死んでから夫人の譲り受けたものと云へば僅かに小さな家二軒だけであつた。

【註】 but=except——(34) 参照。

290. 亞米利加虎は其色は必ずしも一様でない。中には橙色の皮膚を持つてるのもあつて此の種のもが一番綺麗である。又中にはもつとあつさりとした色もある。又殆んど白のも少しは見た者がある。

291. 博く何でも讀んだ人は何でも知つて居る様に思はれて居るが必ずしもそうでない。本を讀めば智識の材料は得られるが考へて初めて讀んだ物を本當に自分の物にする事が出来るのである。

【註】 it is thinking の次に thatがあるなり——(85) 参照。

(110)

292. 子供が悪い事をしておいてそれを隠そうとして虚言を吐けば其の子は罪を犯すばかりでなく非常な卑怯者なのである。

【註】 commit 「犯す」。

293. 彼は勉強しよう決心し一年もたぬ内にすら々々本が讀める様になつた。そのみならず字も上手に書け數學の問題もちつとは出来る様になつた。

【註】 to make up one's mind 「決心する」。

in less than a year 「一年と經たぬ内に」。

294. 鰲の長い嘴は食物を取る道具であるのみならず又非常に有力な武器である。

(111)

295. 實際此等の大洋は世界を劃つと云はんよりは寧ろ世界を結びつけて居るのである。

296. 褒賞が授與されてから校長が云ふには『もう一つ此處に褒美がある、それは賞牌で今迄あまりやつた事がない、其譯は價が高い爲めでなく寧ろ其れをやつてもいゝ様な場合が少なかつたからである』。

【註】 consisting of a medal 「メダルより成る、即メダルである」。

rarely 「滅多に……せぬ」——(142) 参照。

on account of 「……の爲めに」。

297. 河の縁へ來ると彼は靴を脱ぐ間も待たず眞倒さまに飛込んだ。

(112)

298. 艦隊は大損害を蒙つて居たがそれでも尙怖ろしかつた。

299. 彼の最も頻繁に出入した家は甥の家であつた。此二人は少しも似よつた所はなかつたがそれで居てよく氣が合つて居た。

【註】 at all 「少しも」「毫も」——(22) 参照。

(113)

300. エーブラハム、リンカンの傳記を読んで彼を愛さない者はない。

301. どんな事が起つてもそれにより必ず何かしら教訓を得ると云ふのが彼の一つの特性であつた。

302. 其の聲を聞くと土人は必ず恐がるが其れも其の管で年々何人かの土人が此猛獸の餌食となるのである。

【註】 to fall a victim to = to fall a prey to
「餌食となる」。

303. 勇ましい人の偉大なる事業を読んで尊敬と賞讃の念を起さないものはない。

(114)

304. 吾々が稱號を望むなんてそんな矛盾した事はありやしない。

305. 他人の事に立ち入る位無禮な事はない。

306. 充分に注意して説明しても猶それが生徒に解らない時位教師を落膽させる事はない。

(115)

307. 夏期は彼等は終日あちらこちら花を飛び廻つてひたすら楽しむ事のみ考へて居る。

308. 可哀想に其の子は今や悲痛に沈みひたすら余の身代りをさせて呉れと願ふて居る。

【註】 in one's stead = in one's place 「……に代つて」。

(116)

309. 吾々はする事が澤山あるから先づ作業の方法を定めなければなるまい。仕事をするには方法が何より肝要だ。

【註】 everything 「極めて必要なもの」

【例】 Gold is not everything.

金許りあつたつて仕方がない。

Health is everything to the worker.

働く者には健康が何より肝要だ。

310. 私があなたに負ふて居る感謝の負債は未だ帳消しになつて居ない。それに今や形勢一變したのであなたをお助け申すのは私の義務だと思ひす。

【註】 to owe 「負ふ」——(128) 参照。

the scale is turned 「形勢一變す」。

(117)

311. 全天下殆んど彼の勢力範圍内であつたので兵力に訴へて領土を擴張する必要はなかつた。

312. 驛馬は別に使ひ途もなかつたので何度にもわけて奴隸に市へ賣らせにやつた。

(118)

313. 私はどうしていゝか迷つて居たが急に彼の意見を聞きに行かうと云ふ氣になつた。

【註】 When = and then (迷つて居たら) 其時に。

314. 彼は頭をかきながら云ふた『御命令通り器械は持つては參つたものゝうっかりして居てつい其使ひ方を聞くのを忘れました』と。

(119)

315. 彼は又非常に勇ましい子で心もしつかりして居たし腕力も仲々あつた。

316. 金銀の見別けもつかぬ様では君はあまり能く見えないに相違ない。

【註】 to tell from = to distinguish 「區別する」。「見別ける」。

(120)

317. 『そんな事は何でもない、何でも得られる』とピータは云つた。

【註】 of no consequence = unimportant.

318. 能く考へてから物を云へ。特に重大な事なら猶更だ。

【註】 of moment = of importance = important.

319. 馬が吾々に役に立つ様に象は印度の人民に役に立つのである。

【註】 as horses are to us = as horses are of value to us.

320. 『他の駱駝はたちも善いし價も高いので殺すには勿體ない』と其の商人が云つた。

【註】 to be of too good a kind = to belong to too good a kind.
「(殺すには)勿體ない位善い種類に屬する、善い種類のもの」。

to be of too much value = to have too much value = to be too valuable.

「(殺すには)勿體ない位價がある」。

(121)

321. バグダッドに居る洒落者で彼を頼まない者はない。

【註】 a man of fashion = 「流行を追ふ人」「洒落者」。
not.....not——(118) 参照。

322. 御承知の通り私は約束を守る人間です。

【註】 a man of one's word 「約束を守る人」。

323. 吾國では鹽は非常に安い所によると鹽が少なくて鹽を使へる様な人は近所の人から金持の様に思はれて居る様な處もある。

【註】 in the eyes of 「.....の眼から見ると」。

(122)

324. ハートリ君、お前の親父は大方お前を乳屋にする積りなんだから。

325. 吾々の踏く障害物を却つて出世の階梯とする法を知るのは成功の秘訣である。

326. 『私の云ふ事を御聞きなさい。あの子はきつと今に利口な者になるだらう。若しあなたが(死んでしまつては仕方がないが)生きて居れば私の言つた事はうそでない事が屹度わかる』と父は云つたが果して其の通りになつた。

【註】 come true they did は they came true と書くべきを意味を強めんが爲めに順序を變へしものなり——(52)参照。

(123)

327. 彼は仲間の者を皆さきに入れてから自分も入つた。すると戸は又獨り手に閉つた。

(124)

328. 彼は早朝から立ちどろしだつたのもう大分疲れて腹も減つて来た。

329. 鶴は大變雑を可愛がるもので何かにつけて雑の身に契があつてはならぬと常に監督を怠らない。

【註】 to see that 「注意する」「……する様にする」——(141) 参照。

(125)

330. 羅馬人は商業の尊ぶべき事を知らなかつた。でまるで商業を根底から撲滅してしまわうと云ふ積りで、もあつたか當時希臘の商業市として有名なコリンスを破壊してしまつた。

【註】 to be ignorant of 「知らない」。

to root it out 「根こぎにする」「根絶す」。

(126)

331. 吾々の五感の中嗅覚が一番先きにきかなくなる。

332. 『古い白なんか彼奴にやつてしまへやつてしまへ、それは破れて居るし其れに彼奴は其使ひ方なんか知りやしない、だからやつてしまつて其代りにうまいハムを貰う方がいゝ』と二三の新たに來た連中が云ふた。

333. 太古より支那で使用された茶は十七世紀の初めにオランダ人により初めて歐洲に紹介された。

【註】 time out of mind 「太古」。

(127)

334. 人は皆その収入を越さない程度で暮して行く様に工夫しなければならぬ。

【註】 to live within one's means 「収入の範囲内で暮して行く」。

335. 吾々は輸出國民とならなくてはならぬ。さもなければ我商賣上の敵と競争して勝つ事は出来ないだらう。

【註】 or=or else 「さもなければ」。

336. どの新聞にも吾々が讀まなければならぬ所が少しある。此必要な記事を見出して他のつまらぬ部分に時間を費さない様にするのが最良の法である。

337. 而し彼は自分の爲め父の爲又神の爲にそうすべきであつた。

(128)

338. 全乗組員の助かつたのは全く彼等の骨折の御蔭である。

339. 船中の人は一入残らず陸に救ひ上げられた。命の親なる此勇しい水先案内者の外一人として焼死んだものはない。

340. 彼は眞面目に勉強し出した。彼をして今日あらしめたのは全く彼が父の恩を忘れなかつたからである。

【註】 in good earnest 「眞面目に」。

It was.....that——(85) 参照。

made him what he is 「彼をして今日あらしめた」。

(129)

341. 或る舵手の不注意の爲め不幸にしてサンタ、マリア號は座礁し全然放棄さるゝの止むなきに至つた。

【註】 to go aground 「座礁す」。

342. 木曜の眞夜中に M—の空屋より出火し二戸焼失した。強風の爲一時火は燃え擴がる虞があつたが三十分で鎮火した。

【註】 in the small hours 「夜半より二三時頃迄」。

to break out 「起る」

343. 穀類に課税の結果食料品が騰貴し爲めに至る所に不平の聲が起つた。

344. オウエン氏は手紙を受取りはしたものと、手指探へて封を切る事も出来なかつた。

(130)

345. 或人が二人の息子を持つて居たが年上の方は賢いとの評判でダムリングと云ふ若い方は母親のひそつ子であつたが少し足りない様に思はれて居た。

【註】 half-witted = imbecile 「智慧の足りない」「愚かなる」。

(131)

346. 彼は一體無口な方だが一度口を開くと何時も要領を得たことを云ふ。

(132)

347. もつと早く来られなかつたのは母が病氣でついに亡くなつたからです。

it was.....which ——(85) 参照。

348. 社會は如何なる時代に於ても人の立身出世を妨げる事はない。

【註】 to prevent a man from being what he can be
「人の成り得る者になるのを妨げぬ」「出世を妨げぬ」。

(133)

349. 水夫の豫言は事實となつて現はれた。

350. クレントン將軍は非常に喜んだ。其れは内輪われのして居る軍隊は容易に打ち勝てると思ふたからである。

【註】 divided against itself 「内部の和合せざる」。

351. 年も若く身體も丈夫なくせに樂な地位を求める様な紳士は後になつて雇主の役に立ちそうにも思はれない。

【註】 to be not likely to 「……しそうにも見えぬ」。
of much use = very useful ——(120) 参照。

(134)

352. 其ボートは悪々彼を殺す目的で作られたもので河の真中へ行くとボートは滅茶々に破れ乗つて居た者は皆溺死した。

353. 此間少年畫家は畫筆を持つて居なかつた、わざわざフィラアルフイアに買ひにやれば兎も角其邊では買ひたくも買へなかつたのである。

(135)

354. 私が近頃行つた驚くべき國で見て來た事を御話しよう。私の云ふ國と云ふのは島國で其處へ行つたのは私だけぢやないと思ふ。

(136)

355. もつと収入が増える迄は僕が家を新築するなんて思ひもよらぬ事だ。

356. 如何なる職業に於ても高い地位に非凡の人の占め得る空きがあるのは疑のない事だ。

【註】 room 「餘地」。

(137)

357. いきなり彼は其肉に飛びかゝつた。併し其れが爲に彼は自然口を開けたので自分の衝へて居た肉が川の底へ沈んで仕舞つた。

358. 手早く彼は繩を取り狼の頸をしぼり同時に父に犬をどけて貰つた。

(138)

359. (評判の) 化物よりも濕氣の方が私には恐かつた。と云ふのは化物なんてものは見た事がないからいゝがレウマチは此迄度々やつた事があるが治すのは容易な事でないから。

(139)

360. 吝嗇家とは金其物を愛する者を云ふのである。
361. 併し未だ自由の爲めに自由を愛すると云ふ昔氣質のローマ人も居らぬではなかつた。

(140)

362. 時候の暖かい時は水蒸氣は目に見えないが矢張り水はある事はあるのだ。
363. 狼が云つた『其は兎に角お前はやつぱり悪人だ。去年お前は僕の事を蔭で悪く云つたそうぢやないか』。

【註】 Be that as it may 「其は兎も角」
to say bad things of 「悪く云ふ」。
behind one's back 「蔭で」。

(141)

364. あなたが此御菓子を見て居て呉れ、ば夕飯を御馳走して上げよう。私は乳を搾つて來るから其間焦げない様にして居て下さい。
365. アーリは駱駝に附ける飾りを取り出した、又洩りはしないかと思つて水筒を能く調べた。

【註】 if you will 「若し……して呉れば」。

【註】 to look to 「調べる」。

(142)

366. 蓄めた財産により此等の欲しい物を既に得た人々は娛樂の外殆んど何も心にとめぬ。
367. 此河は年々一度は氾濫して土地を肥やす。エジプトでは雨は減多に降らないで。

【註】 to care for 「構ふ」「氣にとめる」「望む」。

368. 御承知の通り實業家は相當の抵當なしでは減多に金を貸さない。左もなければ直きに貧乏になつてしまふ。

【註】 to be reduced to penny 「貧乏になつてしまふ」。

369. 其ハムを一寸法師の國に持つて行こうもんなら大儲けが出来る。一寸法師は皆ハムが大好きだがめつたに手に入らないので。

【註】 to make a capital bargain 「大儲をする」。

370. 彼等は大抵は小さくて高さ二十呎に達するものは減多にない。

【註】 in height 「高さ」。

(143)

371. お前の罪は明らかだ、三ヶ條の間に答へられなければお前の首を刎ね財産を全部沒收してしまふ。
372. 此處に囚人が居る、彼を生かすか殺すか審問を開かう。イサーキエル、お前は彼の反對の辯護士となれ。ダニエル、お前は彼の味方の辯護士となれ。

【註】 lawyer against him 「反對の辯護士」。
lawyer for him 「味方の辯護士」。

373. ウッドチャック奴、貴様は今迄に随分いたづらをしたからもう死んでもいい時分だ、最早生かしちやおけぬ。

【註】 die you shall = you shall die. — (143) 参照。

(144)

374. あなたが若し此企業に私と共力してやる氣がなければ私は獨りで全額を出す考へてす。

375. 此處で彼は時々樹蔭に坐つて袋にはいて居る物をウルフと一所に食べた。

【註】 would 「常とした」 — (176) 参照。

376. 彼は親切で能く骨を折り艱苦に耐へ又なけなしの物を常に貧民に分けてやらうとして居た。

【註】 ever「常に」。

ready to「……せんとする」「喜んで……する」。

the poor = the poor people——(160) 参照。

(145)

377. 人に忠告をしなければならぬ場合には先づ相手が誰だが又どんな事なら其人に無理でないかを考へなければならぬ。

378. 種子として手に入つたものが次の代には花となる様に又花として得たものが次の代には果實となる様に一生を送り且努力しなければならぬ。此れが所謂進歩と云ふものである。

【註】 that may「……する様に」——(103) 参照。

379. 吾々を護つて呉れる筈の故國の王は却つて吾々の敵となつた。

(146)

380. まあ實に美しい顔だ、此の可愛い笑顔が何時までも残らないのは誠に残念な事だ。

381. 斯んな發見が爲れるなんて事は道理にも背き又常識にも反する事だ。

【註】 against = 「反する」「背く」。

(147)

382. 支那の詩人は常に茶を褒める。

(148)

383. 世間ぢや私を金持だと云つて居るが實際それに違ひない。

384. スミザトン大佐は昨日が日曜だつたと云ふて居るが實際そうだつた、彼の云ふ通りだ。

385. 汚い壁や天井や床などは何れも空氣に微臭い息がつまる様な臭を與へる。汚れた着物、泥靴、其他料理洗濯なども同様である。

(149)

386. 私は抱負を大にし何か此世で立派な事業を成し一廉の人間になつて見せる、決して失望落膽などせぬ積りだ。

【註】 to yield to「負ける」。

(150)

387. 彼は狼や狐の様な亂暴をする動物ぢやない。只よくある野菜を少し食べた丈の事でそれとて家には澤山あるのだから少し位やつてやれない事もないのだ。

388. 若し私の命を助けてさへ下されば屹度御深切には報ひます。

(151)

389. 折さえあれば成るべく居ない人の事は褒めておやりなさい。

【註】 the absent = the absent people「其處に居ない人」。

390. 居ない人又は其他誰の事でも悪く云ふものぢやない。其の人が確かに誹られるだけの事があれば格別だが、其れとても其の人の悪い性質を矯正する爲め或は他人の安全利益の爲めに必要でなければ云はぬがいゝ。

【註】 to deserve——(50) 参照。

391. 彼れの功績はいくら褒めても猶足らぬ。

【註】 It is difficult……too……

「いくら……しても……し過ぎる事はない」——(172) 参照。

(152)

392. 昔は亞弗利加内地は總てイシオピアと云はれたものだが、本當云ふとイシオピアと云ふのは單に今日のヌビア、アビシニアの二國の事である。

(153)

393. あのね、君、僕はこんな事をされてもう黙つては居られないよ。

【註】 I'll tell you what 又は I tell you what は「あのね」の意。
what=something.

394. 然るに君は僕の倍も負債がある癖に打撃に堪へ而も其れが爲めに却つてよくなつた。

(154)

395. 彼等は元の知事を護る事を拒んだ。

396. 私が生きてる間は必ずお前の味方となつてやる。

【註】 thou shalt not 「お前に……させない」——(143) 参照。

(155)

397. 苦痛に悩む時には彼はよく書物に由りて慰藉を得んとした。で書中の人々は彼の眞の友達となつた。

398. 昔を顧ると吾々の祖先は此國に自由を得んが爲には大いに骨も折り又苦くみもした事がわかる。吾々は今日彼等の努力の結果を享け楽しんで居るのである。

399. 人が過度の労働の爲に健康を害すと云ふことは吾々の屢々耳にする所であるが十中の九迄は實際心配の爲に苦しんで居るのである。

【註】 to break down 「健康を損ず」。

in nine cases out of ten 「十中の九迄は」。

400. 實際彼は非常な賢人で且善人であつたので放蕩なアセン人は彼を生かして置く譯に行かなかつた。其故彼に無理に毒を飲ませた。

401. お前はくだらない虚榮の爲めに寝て居なけりやならぬ病氣の父を雑沓して居る市場に立たせておいて平氣で居られるなら私はもう何も言ふ事はない。

【註】 ought to——(127) 参照。

(156)

402. そんな騒ぎをやめない中は誰も汝を他の人と間違へる者はない。

【註】 as long as = while 「間は」——(90) 参照。

403. 彼等は敵の退却するのを見て敵は愈々敗北だと思つた。

404. なまじ咆えてなんか見せなかつたら私はお前のなりに嚇かされる所だつた。だがお前の聲は能く知りぬいて居るから何でお前を獅子と間違へるものか。

【註】 too……to——(171) 参照。

405. 其の島の震れるのは船からも見えた。吾々は早く船へ戻れと注意された。左もないと吾々は皆死んでしまふのである。其れは吾々の島だと思つて居たのは實は海の怪物の背中だつたので。

【註】 to prove 「後になつて……とわかる」——(133) 参照。

(157)

406. 其後彼は英國の軍艦に身を寄せ二艘のスペインの大帆船との激戦に参加した。

(158)

407. 其處に居た大臣共は近々の内に催される筈の大行列の際に始めて此新衣を御着用になる様にお勧めした。

【註】 The ministers present = the ministers who were present.
for the first time 「初めて」。

408. 又一方に於ては單に吾々に不思議である許りでなく昔の人に見せたら驚いて眼を飛び出してしまふような事が今日澤山ある。

【註】 not only……but 「……のみならず又」——(110) 参照。

409. どんな事があつても決して動いても話をしてもいけぬ、若し犯したら殺してしまふと皇帝は命令された。

【註】 on pain of death = under penalty of death 「犯したる者は死刑に處すと云ふ事」。

(159)

410. 二國が干戈を交ふるに至ると何れも大使を召喚する。此がつまり兩國間の國交斷絶の證據である。

411. 吾人は何れの國民とも親善なる事は實際喜ぶべき事である。此關係を持続させる爲には吾人は如何なる勞をも惜まない。

【註】 no effort on our part shall be spared 「吾々は……の爲めに少しも勞を惜まぬ」 shall —— (143) 参照。
to spare —— (150) 参照。

(160)

412. 貧乏人も金持も等しく其等を得る事が出来るのである。

413. 負傷者の中に少なくとも一人位親類の居ない家族は殆んどなかつた。

【註】 at least 「少くとも」
but = that……not —— (35) 参照。
the wounded = the wounded persons (or soldiers).

(161)

414. 注意もせず又方法其の宜しきを得ざれば如何なる財産を以てしても要するだけの入費を悉く拂つて行かれぬが氣を付けて適當なる方法を以てすれば極く僅かな財産を以てしても之を辨じ得るのである。

【註】 Without care and method 「若し注意もせず又方法其の宜しきを得ざれば」。
With them = with care and method 「氣を付けて適當な方法を行へば」。

415. 自分では此れて仲々抜目ないと思つて居るのだがいくら智慧をしぼつても助からなかつた。

【註】 to lay claim to 「……を以て任ず」「……が自分の者だと要求す」。
a good degree of shrewdness 「仲々抜目がない事」。

416. 自然の法則により河は流れ下るものでいくら力の強い人でも之を止める事は出来ない。併し賢い人は自然の法則を變へる事は出来ない迄も之を利用する方法を知りて其法則を自分の都合のいゝ様にするであらう。

【註】 to one's own advantage 「自分に都合よく」。

(162)

417. 彼は小供の話の聞いて様子わかるにつれだん々々親しくなつて終には可愛がつて小供の頬を撫でた。

418. 此教を學ぶのが早ければ早い程又充分なれば充分な程其の人の心の平和の爲め又出世の上に利益があるだらう。

419. 客は貧乏な程御馳走して貰ふといつも喜ぶと云ふ事は人生を通じて適用される。

【註】 to hold good 「當てはまる」。
ever = always.

(163)

420. それはどつちか開いて居るかと思つてぐるつと廻つて見たが開いて居なかつた又それは滑べるので登れない事もわかつた。

【註】 to see if —— (81) 参照。
there was no climbing up = I could not climb up 「登る事が出来なかつた」。

421. それが私を置いて行つた所は四方山に圍まれ何れも雲の上にも達する位高くてとても山間から出られぬ位険しい山であつた。

【註】 on all sides = 「四方」「何ちらを見ても」。
there was no possibility of getting out = I could not get out 「出られなかつた」。

(164)

422. ラムガツヂアン様、丁度去年の今日私が暇乞に参つたのを覚えてお出でせう。

(165)

423. 併し間もなく彼も亦空腹と疲労の爲め力を落した。

424. 私は其れに手をのせたらそれが何だか少し動く様な気がしました。丁度其時私は鋏を持つて居ましたからついやつて見度くなつて其の瓦と次の瓦との間に鋏のさきを入れました。

【註】 having my scissors with me 「丁度鋏を持ち合せて居たので」。
through curiosity 「好奇心の爲め」。

(166)

425. 何遍も云ふにつれだん々云ひ易くなつて後には其言葉 (No なる語) が必要の際に雑作なく云へる様になつた。

【註】 The oftener.....the easier——(162) 参照。

426. 此の二百ドラクマの金は直きに四百ドラクマになり、いまに勿論四千ドラクマになるだらう。

427. ボートは既に出て行つたがうまく間に合つて鱈が子供等に追ひ着かない内に小供の所へ着く事はむづかしいと云ふ事を彼は知つて居た。

【註】 to prevent the shark from overtaking him 「鱈が彼に追ひつくの妨げる」。

428. 單に時間に後れる爲めに何事を企てゝも常に失敗する人が世間には往々ある。

429. 世に成功せんとする人の何よりも先きに得なければならぬ徳がありとすれば其れは時間を守る事である。若し避けなければならぬ過失がありとすればそれは時間に後れる事である。

【註】 should 「.....すべき」——(145) 参照。

(167)

430. 只今當店に参つたもので此れならと思ふ品が御座います。

【註】 to suit 「氣に入る」。

431. 「そーだ、丁度一年になる。ラムガツヂオン君、去年の今日ブラット大佐と共に私が暇乞に來たのを覚えて居るだらう」とスミザトン大佐が云つた。

【註】 just one year to a fraction 「丁度きつちり一年」。
this very day last year 「丁度去年の今日」。

432. 船客も船員も悉く日本人であつた。 *They are Japanese all*

(168)

433. 其夢を見た人は目を覺すとまるで別人の様になつて居た。

434. 或朝目を覺して見ると私は家の一番低い番頭よりも貧しい者になつて居た。

435. 彼は自分の爲した事業の結果を見ずに死んでしまつた。

【註】 to enjoy the fruits 「結果を楽しむ」「結果を見る」。

436. 吾々は其處を突進したが又元の牢獄に這いつてしまつた。

437. 吾々は勝つに定まつて居るが誰が生き残つて此の事を語る様になるかは別問題だ。

(169)

438. 私は非常に貧しく且弱つて居るので働けません。此際子供を三人とも連れて行かれてしまへば私は餓死する許りです。

(170)

439. 私は食べ物も家も着物も武器もなく又逃げて行く所もなく如何なる救助も得られないものとあきらめて只死ぬより外ないと思つた。即野獸に食はれるか野蠻人に殺されるか食物の缺乏の爲餓死してしまふか何れかであつた。

【註】 for want of「……の缺乏の爲め」——(170) 参照。

440. 朝になつて見ると大いに驚いた事には船は満潮の際に浮いて餘程島に近い處へ吹き寄せられて居た。

441. 誰も彼も同じ様な事をするのでリツプも我知らず頭に手をやつて見ると驚くまい事か髯は延びて一尺にもなつて居た。

442. 磁石は銅線を引かなかつたのでチャーリは大いに満足した。

(171)

443. アリス様、御承知の通り私は此通り貧乏でしたいと思ふ事も出来ないのです、で時々そんな事を思ふとほんとに悲しくなります。

【註】 too poor……to do「あまり貧乏で……出来ない」。

444. 母が大變悪いのですが家は貧乏で食物も薬も買へない様な譯、それで實は何つたので御座います。

【註】 too poor to get……「貧乏で……が買へない」。

445. 夜になると皆の者が私に向つて御母様は御加減がわるくて今夜はいつもの様にねしなにキスは出来ないから其積りで直ぐにおねなさいと云つた。

【註】 too sick to kiss me「大變悪いのでキスは出来ない」。

446. 此大政治家は最早可成りな年であつたが死ぬのが餘り急で一二年早過ぎた爲め之れ迄多年従事して居た事業を完成するに至らなかつた。

【註】 of a good age「可成りの年」「高齡」。

as=though——(17) 参照。

too suddenly, and a year or two too early, to let……

「あまり急で一二年早過ぎたので……が出来なかつた」。

(172)

447. 此の世の中ではいくら注意しても注意し過ぎると云ふ事はない。親友ですら往々吾々を欺すのであるから。

【註】 our best friends「親友ですら」——(161) 参照。

448. 其動作の重要なことはいくら尊重しても猶足らぬ位である。

449. 彼は立身を計らなければならぬ。してそれはいくら早く始めても早過ぎる事はない。

【註】 to make one's way in the world「立身す」。

(173)

450. 御前を一日二日犬にして見たいものだ。

451. 私は音楽の事は多少知つて居た又聲も可なりの聲だつた。で今では此娯樂として居たものを生計の手段として居る。

(174)

452. 一度か二度仲間の者で遠くに棕櫚の木の頭が見えた様に思つた者もあつたがやつぱり見間違ひで地平線上の片雲に過ぎない事が後でわかつた。

453. 全島中に少しも金がないと云ふ事がわかつた。即此遠征は三度の遠征中最も不成功のものであつた。

【註】 the least successful「最も不成功」。

(175)

454. 御承知の通り私は此處に住み慣れて居るので他に移りたくない。
 455. 此れ迄華美(はで)な暮らしに慣れて居らつしやるのだから内の粗末な物を召し上がる様に御願ひする事は勿論、家へ御出を願ふ事すらとても出来まい。

【註】 could 「出来まい」「出来ないだらう」即假設の意を有す。

(176)

456. 子供の時分に彼はよく云ふことを聞かないでそうしちや御母様に竹の棒でぶたれたものだ。
 457. 彼は僕等が一所に學校へ行つた時分と丁度同じ位な年齢だ。
 458. 村の女達はいつも彼に(頼んで)使に行つて貰つた。

【註】 to run one's errand 「……の使をする」。

459. 年とつてから彼はよく子供等に自分の生涯の話を開かせた。
 460. 時々むづかしい學課のあつた時には彼は休み時間にも運動場へ出ないで勉強して居る事があつた。

【註】 instead of 「……の代りに」「……しないで」。

461. 其れ(駱駝)は此若い小供に比べると大きな動物であつたが何時もアーリの云ふ事を善く聞いた。

【註】 by the side of 「比べると」。

462. 王様がいくらでも勝手に人民に課税した時代もあつたが程なく此の方法のわるい事がわかつた。

【註】 It was not long before..... 「程なく……した」。

643. 毎朝學校へ行く時に仲間の者が三人彼を呼びに来て其の中の一人が馬になつて彼を乗せあとの二人が左右でおさへてやり斯ふ云ふ風にして彼は威張つて學校へ乗つて行つた。

【註】 in triumph 「意氣揚々と」「得意で」。

464. ビータは六分儀の使ひ方を知つてる者を探したが見當らなかつた。

(177)

465. 彼は狼の頸をギユツと自分の肩の處に引ばつて居たので狼は殆んど息もとまる位で喰ひ付こうとしてもだめだつた。

【註】 scarcely 「殆んど……ない」——(72) 参照。

(178)

466. アリ、ババは望まるゝまゝに何もかも話した、で洞穴に入るのに使ふ言葉迄話してしまつた。
 467. 時間が充分あつたので危険だとも思はず豫て行つてはいけなと云はれて居た其場所の方へ行つた。
 468. 不幸にして貧乏の身に生れついても其貧乏を却つて勉勵節儉を促す刺戟物となす事が出来る。
 469. 猶困る事は吾々は呼吸其物の爲めに空氣を汚さないわけに行かないのである。

【註】 What makes the matter worse 「猶一層困る事には」
 can not help 「……せざるを得ぬ」——(77) 参照。

470. 兩人の性質の違つて居る所が却つて和合の基となつた。

(179)

471. 或時家への手紙の序に彼は野菜が食べられないで大變不自由して居ると云ふてやつた事がある。

【註】 to suffer ——(155) 参照。

(180)

472. 此所は寒さがひどいが左もなければ好都合ではないか。

【註】 or else 「左もなければ」。

473. 世に法律がなければ吾人は未開の野蠻人とえらぶ所はないだらう。

474. 國民が王を持ちたがつたらサミュエルは王なぞない方が餘程幸だと骨を折つて云ふて聞かせた。

(181)

475. チョン君、何時も何故名所見物に妻君も一所に連れて來なかつたのか。

(182)

476. 竹は熱帯地方の産物中最も綺麗で且奇異なるものゝ一つで又未開の人類への自然の最も大なる賜物の一つである。

477. 眞實の事を云つても人が信じて呉れないとがわかりするが時がたてば眞偽は自ら明らかになる。

【註】 only to discover の to は結果を表はす——(168) 参照。

(183)

478. 此情愛深き息子は僅かに残れる力を出して醫者から貰つて來た藥を犬の首に結び付け家へ持つて歸らせた。

【註】 What little strength = all the little strength.

「僅かではあつたが有りつたけの力」。

479. 御近所の人からあなたが御病氣だと云ふ事を聞いたので出来る丈の事をして上げたいと思つて參つたのです。

480. 所が少し離れた所で見て居た者が一人居た。彼は出来る丈の事をしてやる積りで其處へ行つた。

(184)

481. 仕事の私に於けるは猶水の魚に於けるが如きものであつた。

(185)

482. 所が石がなくなつて居るのを見て彼等はひどく驚いた。

483. 大變に様子が變つて居るのを見て私は實に屹驚しました。

【註】 to take place 「起る」——(158) 参照。

484. 彼は小羊の中にも少しは無事なものもあると思つて喜んで居た。所が數へて見ると一頭も足りなくなつたので彼は随分驚いた事だらう。

【註】 at least 「せめて」「少くとも」

missing 「居ない」——(105) 参照。

(186)

485. 人の聲やら牛の鳴き聲やら豚の鳴き聲やら同化者に笑はされる聲やらで市場は實に喧しかつた。

(187)

486. 併しワングは切りに金をため度がつて居たにも拘らず貧乏であつた。

(188)

487. 彼は躑かない様に氣を付けて歩いた。

488. 鯉魚は非常に早く泳げるので其の主なる食物となつて居る魚を容易く得る事が出来る。

【註】 with great swiftness = very swiftly.

(189)

489. 僕は見るだけの價値の有るものは皆見たいと思ふ。

490. 持つ丈の價値ある物で骨を折らないで得られる物はない。

(190)

491. いつか一日休みを潰して此大都會を見物しても損はないと思ふ。
 492. 雇人迄も終には主人のだらしない風習に染まり主人だつてそうしないのだから何事も正しくするのはつまらぬと云ふ様な考へになる。

(191)

493. 彼等はつまらぬ娯樂にふけて時を空しく費して記憶するに足る様な事は一つしなかつた。
 494. 要するによい粘土を作る積りで掘つたり家へ運んだり細工したりしてかれこれ二ヶ月も骨折つたあげく漸く出来上つたものとは云ふと壺と云つてはお恥かしい様なみつともない土器二個であつた。
 【註】 In short 「要するに」「手短かに言へば」。
 495. さすが勇ましきモーヂアナの此の行が少しも音を立てず仕終つてから彼女は釜を持って台所へ歸つて來た。
 496. そんな事を云つてはいけません。男がそんな(弱い)事を云ふてどうするのです。
 497. 要するに此ゼノア人の發議した企ては眞面目に考へるだけの價値はないと云ふのですね。
 【註】 To cut short the discussion 「つまんで云へば」「要するに」。
 498. 此ふ云ふ着物を着れば我帝國內の誰々が其の職に不適當であるか又朕の信任する價値がないかゞ解るだらう。

(192)

499. 私はどんな事があつても鑛物なんかには成りたくない。私は年々靜かに座つて居て何もしないで居るのは嫌なことだ。それよりも自分の

枝を日向に擴げて葉から善い春の空氣を吸ひ込む方がどれだけいゝか知れやしない。

【註】 for the world 「どんな事があつても」「斷然」。
 in the sunshine = in the sun 「日向に」。

500. 彼は右脚を彈丸で貫かれたが英國國民の恥辱を蒙るを見んよりは我兩脚を失くした方がましだと云つた。

【註】 had his right leg pierced 「右脚を貫かれた」— (74) 参照。

329
40



323
40

終